

令和 6 年度 施策評価表

第 7 章 未来(あす)を見つめたまちづくり

まちづくりの目標	人々が持つ力を存分に活かし、従来の手法にとられない行政改革に取り組み、持続可能な行財政運営を進めることで、将来都市像の実現に向けたより効果的な市政運営をめざします。
分野別計画・指針	ユニバーサルデザイン推進基本方針、第4次所沢市男女共同参画計画、所沢市公共施設等総合管理計画、所沢市公共施設長寿命化計画、第3次埼玉県西部地域まちづくり構想・計画(ダイアグラム)、所沢市人口ビジョン、第2期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略、COOL JAPAN FOREST構想、第2次所沢市定員管理計画、所沢市DX推進基本方針、所沢市特定事業主行動計画《第4次》、所沢市中長期財政計画、所沢市収納率向上計画

第1節	人権の尊重
関係所属	企画総務課、市民相談課、社会教育課、学校教育課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度
「人権の尊重」 身のまわりで差別や偏見などを感じない	847	37.1%	263	11.5%

評価指標の 達成状況	指標名	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	人権の尊重に関する施策への満足度	%	38	50	37.1	×	52

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
7-1-1 人権を尊重した社会づくり	職員向け人権研修会の受講者数	人	200	230	224	×	230
7-1-2 人権教育の推進	人権教育講座の受講者数	人	762	790	453	×	800
7-1-3 ユニバーサルデザインの推進	職員のユニバーサルデザインへの配慮度	%	49.1	75.0	64.8	×	80.0
7-1-4 男女共同参画を進める意識と環境づくり	男女共同参画に関する講座の参加者数	人	1,750	1,800	1,756	×	1,800
7-1-5 多様な生き方が受け入れられる環境づくり	ワークライフバランスの認知度	%	60.6	64.5	79.7 (R4)	○	65.0

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○新規採用職員を対象とした人権に係る研修のほか、職員及び市内事業者向けに人権問題企業研修会を開催し、人権に関する正しい理解の普及・啓発を図った。研修を計画するにあたっては、年度による偏りが無いよう、また、近年の社会の動きに係る情報を提供できるように、取り上げるテーマを工夫している。
 ○所沢市人権教育推進協議会との共催で、市民や市職員等を対象に多様な人権問題をテーマとした人権教育講座を開催した(全11講座・参加者総計453名)。講座の際に人権啓発冊子やグッズの配布、本人通知制度のPR等を行い人権教育の推進に努めた。
 ○職員のユニバーサルデザインに係る意識啓発のため、「カラーユニバーサルデザイン」において配慮すべき点等について、庁内インフォメーションを活用して周知を図った。
 ○男女共同参画に関する講座は、女性を対象とした実践的な護身法の講座など、市民の関心の高い講座に絞って開催した結果、参加者数は維持されている。
 ○働き方改革関連法案の施行による労働環境の変化などから、市民のワークライフバランスの認知度は上昇傾向にあり、令和2年度には令和6年度の目標値を達成している。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○人権の尊重に関する施策の満足度は、質問「身の回りで差別や偏見を感じない」に対する「思う」と回答した割合だが、この設問の無回答を除くと、「思う」約47%、「思わない」が約9%、「どちらともいえない」が約44%となっており、半数以上が、差別が偏見が全くないとは思っていないことが伺える。ヘイトスピーチやLGBTなどの新たな人権問題も加わり、引き続き様々な啓発活動を行っていく必要がある。
 ○職員向け人権研修会について、受講対象が新規採用職員及び主査級昇格者等、職位を限定して実施していることから、令和5年度の目標値に至らなかった。
 ○「人権教育の推進」の目標未達成は、主に家庭教育学級人権講座の参加者数がコロナ前の状況にまで戻っていないためである。
 ○職員のユニバーサルデザインへの配慮度について、前年度の結果を上回ったものの令和5年度の目標値に至らず、未達成となった(R4調査結果62.3%)
 ○講座の参加者数について、新型コロナウイルス感染症流行下と比較して参加者数は増加しつつあるものの、流行前の実績値に至らず、目標値が未達成となった。また、体調不良等による講座参加者の当日キャンセルの発生や、講座の内容により参加者数の偏りが大きいことも、目標値未達成の一因と考えられる。

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**
 ○職員向けの人権研修機会について、受講対象者の範囲を広げ、社会情勢に合わせた内容にする等、充実に努める。
 ○一人ひとりの人権意識の向上は重要な課題であり、継続的に人権学習の機会を設ける必要性は高く、今後も人権教育の講座開催に努める。
 ○職員に対して、引き続きデスクネットのアンケート機能を利用した「ユニバーサルデザインに関する職員アンケート」を実施するとともに、定期的にユニバーサルデザインに関する情報を関係課と連携して庁内配信し、職員の意識啓発に努める。
 ○女性だけでなく、夫婦や父子等で参加出来る講座を充実する。
 ○計画的な年休取得の推進など、ワークライフバランスに配慮した健康で働きやすい職場づくりを市が率先して進めていく。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**
 ○人権に関する講座や研修については、新たなものも含めてテーマ別に取り上げ、職員、市民はもとより企業等も含めて幅広く実施していく。
 ○職員向けの人権研修について、複数の開催時期を設ける等、様々な職位の職員が研修に参加しやすい方法を検討していく。
 ○家庭教育学級人権講座の参加者が増えるよう、講座内容の充実や周知に努める。
 ○職員のユニバーサルデザインへの配慮度の向上を目指し、広報課や福祉部等の関係課と連携し、インフォメーションを活用した周知を図る。
 ○ユニバーサルデザインアンケートについて、回答率を上げるために所要時間の目安の表示や回答しやすい設問の設定等を検討する。
 ○男女共同参画に関する講座について、さまざまな手段で情報発信を行い市民に周知する。また、講座のチラシ等について、市民の目に止まりやすく、参加意欲が湧くような宣伝文句やデザインについて研究していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナースhipで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美 教育総務部次長 池田 淳
-----	---------	--------	-------------------------------

第2節	市民参加・情報共有	
関係所属	広報課、企画総務課、市民相談課、経営企画課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人	満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度
「市民参加・情報共有」 所沢市からの情報発信や市政への参加機会に満足している	457	20.0%	199	8.7%

評価指標の 達成状況	指標名	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	市の情報発信に対する満足度	%	62.7	69.0	56.6	×	70.0

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
7-2-1	市民参加の推進	審議会等における市民公募に伴う無作為抽出の実施率	%	85.4	88.0	91.4	○	88.5
7-2-2	わかりやすい市政情報の発信	ところざわほっとメールの利用登録者数	人	18,658	31,000	30,209	×	33,000
7-2-3	広聴機能の充実	市政懇談会の開催回数	回	7	7	6	×	7
7-2-3	広聴機能の充実	市民意識調査の回収率	%	43.9	50.0	45.6	×	50.0

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○審議会等の公募委員選任に係る無作為抽出の活用については、「所沢市市民参加を進めるための条例」(平成27年4月1日施行)に基づき全庁に向け働きかけており、その成果が見られ、毎年度無作為抽出の実施率が上昇している。
 ○「広報ところざわ」では、「読みやすい・役立つ・共感できる」広報紙を目指した紙面作りに努めた。
 ○市民向け「ところざわほっとメール」では、より多くの方に市政情報を迅速かつ正確に配信するよう努めるとともに、多くの方が通信手段として活用しているLINEとの自動連携を行った。また、特に10代から20代の若い世代に向けて、所沢への関心や愛着を持ってもらうことを目的として、広報課公式Instagramを開設し、市内の風景やイベントの様子などについて情報発信を行った。
 ○各団体の意見や要望を聴く「市政懇談会」は、新型コロナウイルス感染症の類型変更に伴い、人数制限を行わないなど従前の方法に戻して開催した。
 ○令和5年度市民意識調査の回収率は45.6%であった。全体の回答数2,282件のうち、32.1%にあたる733件がインターネット回答によるものであった。今年度、インターネット回答のフォーマットについて、より見やすく回答しやすいものに刷新した。令和4年度の全体に対するインターネット回答の割合は31.6%であり、若干割合の増加が見られた。引き続き、さまざまな世代の市民が回答しやすい方法を模索していく。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○市の情報発信に対する満足度については、若い世代の満足度が低いことや、女性と比較して男性の満足度が低い傾向がある。各ターゲットが関心を持つテーマや周知媒体などを研究し発信していくことで、全体の満足度の改善につながると考える。
 ○ほっとメールの利用登録者数は前年度から減少しているが、令和5年度からほっとメールとLINEとの自動連携を開始しており、ほっとメールからLINEに移行している利用者が多いことが考えられる。
 ○市政懇談会については、市長交代に伴う他の事業との兼ね合いにより次年度へ開催を延期した懇談会があったため、開催回数が目標値に達しなかった。
 ○令和5年度市民意識調査の回収率は、令和4年度の実績51.4%から5.8ポイント減少し、45.6%だった。原因については、明確な要因を特定することは難しいが、コロナ禍において市政への関心が高まっていたが、平常時に戻ったということが考えられる。(参考:一昨年の回収率は48.7%)

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**
 ○審議会等における市民公募に伴う無作為抽出の実施率について、市政における市民参加を進めるため、今後とも現状維持以上を目指していく。
 ○広報紙をはじめとして、ほっとメール、LINE、Facebook、X(旧ツイッター)、Instagramなどの各種媒体を効果的に運用し、わかりやすく、正確な情報提供ができるよう、引き続き努めていく。
 ○市政懇談会については、今後も市政に反映させるため、市民・団体等の多様な意見や要望を聴く機会の確保に努める。
 ○市民意識調査については、調査結果の分析等を行うことで、より精度の高い政策の立案、実行につなげていく。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**
 ○幅広い世代に興味と関心を持ってもらえるよう、各種SNSなどを活用し、市政情報の発信をさらに充実させていく。
 ○市長タウンミーティングなどの広聴事業をより効率的に運営することで、市政懇談会の開催回数の確保に努める。
 ○市民意識調査については、引き続き調査票のレイアウトの工夫や、設問の内容をよりわかりやすいものにするなど、市民が回答しやすい調査にすることで回収率の向上を図る。

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	レ 11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	レ 17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美 市民部次長 糟谷 苗美

第3節	人材育成・組織体制							
関係所属	経営企画課、職員課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「人材育成・組織体制」 所沢市職員の対応や執務態度に満足している			614	26.9%	281	12.3%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	人材育成・組織体制に関する施策の満足度		%	—	100	26.9	×	100
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
7-3-1	職員の人材育成と組織 の活性化	自分自身が成長したと感じる職員の割合	%	—	80	67.4	×	80
7-3-2	職員が能力を發揮できる 職場環境の整備	ストレスチェックを受検した職員の割合	%	78.4	80	63.3	×	80
7-3-3	組織体制の整備・充実	事務の応援件数	件	4	5	22	○	5
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○人事評価については、引き続き重層的な評価者研修を実施し、人事評価面談の中で評価者から被評価者に対し成長点の刻みを意識したアドバイスをするように働きかけており、目標値は未達であるが、昨年度と比較して、成長したと感じる職員の割合は増加している。</p> <p>○職員研修では、現代的な課題に対応するための新たな取組として、特別研修「DX推進のヒントを学ぶ—業務改善のコツとムダの見つけ方」を実施した。</p> <p>○ストレスチェックについては、回答のしやすさを考慮してWEB形式を導入したが、令和4年度よりも受検率が低下した。</p> <p>○組織の枠を超えた機動的な対応を図る「事務の応援制度」を活用することにより、繁忙期など時限的に人員を要する業務に対して柔軟に対処することができた。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○人材育成・組織体制に関する施策の満足度は、質問「市職員の対応や執務態度に満足している」に対する「満足」と回答した割合だが、この設問の無回答を除くと、「満足」約34%、「不満」が約15%、「わからない」が約51%となっており、少なからず「不満」に思う方がいることから、まずは、この値を下げていくため、職員の接遇等に関して市民目線に立った丁寧な対応を心がけるよう、繰り返し職員へ促していく必要がある。</p> <p>○自分自身が成長したと感じる職員の割合があがらないのは、自身の中の目標が高く、成長を感じたと選択するほどとは考えない職員が一定数いることも一因と考えられる。</p> <p>○ストレスチェックについては、受検率が50%を下回っている所属を見ると、1人1台のパソコンがない所属や、主に基幹系のパソコンを使用している職員が多い所属もあり、WEB形式にしたことで受検しにくくなったと感じた職員もいたと考えられる。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○スモールステップでも着実に自分が成長していることを実感できるよう、階層別研修等で振り返りの意識付けを行う。</p> <p>○現行の「所沢市人材育成基本方針」を見直し、人材の育成・確保をトータルに捉えた「所沢市人材育成・確保基本方針」を策定するため、庁内検討委員会を設けて調査及び検討を行う。</p> <p>○ストレスチェックについては、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的であることや、受検率が高くなることで正確な集団分析結果を得ることができる旨を周知する。</p> <p>○庁内ネットワーク等を活用し、「事務の応援制度」について浸透を図ることで、繁忙期等における応援体制を強化していく。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○市民等に対し、丁寧に対応できるよう、事務の効率化や職員の負担軽減、職員の働き方改革など、組織全体で取り組んでいく。また、市民からの感謝の言葉があった際には職員間で共有するといった個々の努力が認められる仕組みを大切に、より良い職場環境を構築していく。</p> <p>○評価者・被評価者研修実施にあたっては、評価者からも成長していると評価できる点をしっかりと被評価者に伝えられるよう、研修講師とすり合わせを行っていく。</p> <p>○ストレスチェックについては、入力操作が分かりづらいとの理由で受検しないケースが散見されたことから、入力操作の簡素化を図るなど、受験しやすい環境を整える。</p>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
レ	8 働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美 総務部次長 市川 雅美

第4節	行政経営								
関係所属	経営企画課、デジタル戦略課								
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度			
「行政経営」 所沢市は計画的な施策運営や業務の効率化に取り組んでいる			344	15.1%	310	13.6%			
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値	
	年度内に改善を図った事務事業の割合		%	89.6	100	91.2	×	100	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値	
7-4-1	将来都市像の実現に向けた計画行政の推進	個別計画におけるPDCAサイクルの導入率	%	60.8	100	84.7	×	100	
7-4-2	行政経営の考え方に立った改革の推進	行動計画表に掲げた目標の達成率	%	80	90	92	○	95	
7-4-3	地域の総合力の向上	自治体・企業・教育機関等と協定等により連携している事務事業の件数	件	184	215	246	○	220	
7-4-4	ICTを活用し未来をみつめた市民本位のまちづくり	「所沢市ICT推進アクションプラン」における進捗状況	%	99	100	-	○	100	
7-4-5	情報セキュリティ対策の充実	情報セキュリティ監査における指摘事項、観察事項改善率	%	100	100	93.3	×	100	
節の基本方針への取り組み状況									
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○所沢市マネジメントシステム(TMS)推進指針においてPDCAサイクルを行政マネジメントの基本と位置付け、全庁に発信した。 ○職員がもつ特有のスキルを各事業で活用する「お助け人制度」の周知を行うとともに、お助け人の活動実績を庁内向け業務アプリを活用し全庁で共有した。これにより、お助け人の貢献意欲醸成と制度明確化による利用促進を図った。 ○公民連携推進室を設置し、公民連携プラットフォームの開始や公民連携ガイドラインの策定などにより産学官連携の強化を図った。 ○業務改善プラットフォーム・Web版住宅地図・文章生成AIの導入により、事務の効率化や経費・紙資源の節減を図った。 ○情報セキュリティ監査や職員に対する研修(動画、インフォ等)、標的型メール訓練を行い、セキュリティレベルの維持・向上を図った。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○年度内に改善を図った事務事業の割合は、498件の事務事業評価のうち、「改善した点」欄に記載があるものが454件にとどまったため、実績値は91.2%となった。未記載のものが44件あったが、内容を見ると何らかの改善点はあったが評価表の記載には至っていないというように見受けられる。 ○個別計画におけるPDCAサイクルの導入率については、84.7%であったが、前年値の77.1%より、7.6ポイント上昇している。合理的かつ計画的な市政運営を執行するため、計画策定や改定の際にPDCAサイクルが取り入れられるよう継続して働きかけを行っている結果、年々、数値が向上している。 ○監査の基本方針を見直して監査対象を全部門に拡大したこと等により、指摘・観察事項数が大幅に増加し、改善に時間を要したため。なお、未改善のものは翌年度に持ち越して対応する。 ※「所沢市ICT推進アクションプラン」における進捗状況については、令和4年度からDX推進基本方針に変わったため実績値なし。</p>									
今後の方向性									
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○各分野におけるPDCAサイクルの実践を推進し、事務事業の継続的改善へとつなげていく。 ○「行政経営のための職員行動ガイドライン」の行動計画表における、「組織間、組織内の縦横の障壁をなくし、連携して業務を進める」に基づき、事務改善委員会において全庁的な課題を洗い出し、委員会主体で部局間の連携を推し進めながら課題解決を図る。 ○公民連携プラットフォームの庁内外への周知及び機運醸成を図り、より効果的・効率的に産学官連携を促進する。 ○「所沢市ICT推進基本方針」を引き継いだ「所沢市DX推進基本方針」に掲げる中間目標の達成に向け、進捗管理を図る。 ○フロントヤード改革、テレワーク、クラウド化など新たな時代の要請に対応するため、また、各地で多発している情報セキュリティ関連の事故を踏まえ、実践的な訓練を含め、情報セキュリティ対策の充実に取り組む。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○事務事業評価表の「改善した点」欄については、全く改善が図られていないことはないはずなので、空欄で提出されたものについては内容確認をしたり、聞き取りをして記入を促したりするなど、PDCAサイクルの確保に努める。 ○個別計画におけるPDCAサイクルの導入率については、新規で策定する計画についてPDCAサイクルの適合可否を考慮できるよう働きかけていくとともに、全庁的に行政評価(政策評価・施策評価・事務事業評価)の取組を浸透させ、合理的かつ効果的な市政運営を継続して推進していく。 ○情報セキュリティ監査の実施スケジュールを前倒しするとともに、監査当日に結果を予告しておくことで、被監査部門の改善対応可能期間を長く確保する。また、情報セキュリティ研修メニューのラインナップを多層化し、職員個々の立場・役割に応じたセキュリティ意識の醸成を図る。</p>									

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	レ	17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美

第5節	財政運営							
関係所属	財政課、収税課、経営企画課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,282人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「財政運営」 所沢市の財政運営は将来を見据えて適正に進められている			262	11.5%	422	18.5%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	実質公債費比率		%	1.6	5.0	5.1	×	5.0
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
7-5-1	将来を見据えた財政運営	将来負担比率	%	2.5	30.0	0.8	○	30.0
7-5-2	財源の確保	市税の収納率	%	93.9	98.0	98.3	○	98.0
7-5-3	財務の透明性の確保	財政情報に関する市ホームページのアクセス件数	件	56,399	61,000	69,679	○	62,000
7-5-4	公共施設マネジメントの推進	公共施設の総面積	m ²	715,675.08	現状値 以下	718,207.6	×	現状値 以下
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 将来的な財政予測を踏まえ、総合計画や各種計画、事務事業評価結果等を立案して予算編成を行った。 ○ 所沢市収納率向上計画に基づき債権の差押や未整理事案の解決を中心とした滞納整理及び現年課税分に対する早期のアプローチを行い、収入未済額の圧縮に努め、財源の確保を図った。 ○ 市ホームページや広報とろざわを活用し、市政に関する情報を広く公表することで財務の透明性確保につなげた。 ○ 各公共施設の日常点検(395件)を実施し、安全の確保や美観維持、故障防止及び修繕が必要な不具合箇所の把握などに努めた。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年度の単年度の率は令和4年度より下がったものの、実質公債費比率は、3カ年の平均で算出するため、単年度の率が低かった令和2年度が対象から外れたことにより、算定結果として目標値を超えたものである。なお、単年度の率は下がっているため、財政運営に大きな影響はない。 ○ 公共施設の総面積を減らすという事業目標については、昨年度と比較して総面積は減少しているものの、施設の更新等により現状値との比較では総面積が増加している。なお、「所沢市公共施設長寿命化計画」に基づく複合化時期に到達するまでは、総面積は大きく減らない見込みである。 								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合計画に掲げる将来都市像の実現に向け、所沢市中長期財政計画や実施計画等に基づき、将来的な財政状況を見据えた財政運営を行う。 ○ 滞納繰越分を早期に解決し、下半期は業務の比重を現年課税分にシフトし、効果的な催告の実施や折衝機会の確保を通じて自主納付を促し収納率向上を目指す。また、一方で財産が判明した滞納者に対しては順次、滞納処分を進めていく。 ○ 多くの市民に興味や関心を持ってもらえるよう、分かりやすい財務情報の提供を心掛け、引き続き、財務の透明性確保に努めていく。 ○ 「所沢市公共施設長寿命化計画」に基づく長寿命化改修を推進するとともに、施設の複合化に向けた準備を着実に進めていく。 <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も、現在実施している大型事業をはじめ、老朽化が進む公共施設の改修など、多くの財政需要が見込まれるため、引き続き、事業費や財源の精査を図り、結果として健全な数値を維持できるよう進めていく。 ○ 「所沢市公共施設長寿命化計画」に基づく施設の複合化が実現するまでは一度に総面積を大幅に減らすことは難しいが、計画に記載されていない個別の施設・機能の複合化や廃止などについても機会を捉えて周知を図る。 								

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
8	働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美 財務部次長 新井 猛